

眼内レンズの度数の選択について

若いころは遠くから近くまではっきり見える範囲は広いですが、40歳を過ぎるとはっきりと見える範囲が狭くなってきます。すでに老眼になられた方は分かると思いますが、裸眼で遠くがよく見える、あるいは眼鏡をかけて遠くがよく見える方は、その状態では近くがはっきりと見えないので、老眼鏡が必要になります。一方、老眼鏡は近くがよく見えますが、遠くははっきりと見えません。

眼内レンズを入れた目も同様に、はっきり見える範囲が限られています。したがって、白内障の手術を受けた後に、はっきり見えない領域があれば眼鏡を使用させていただきます。

そこで、手術後にどの領域が見えるようになりたいかを考えていただきます。なるべくご希望に添うように眼内レンズの度数を選択したいと思います。

次の3つから選んでいただきます。

1. 遠く（5m以上）がよく見えるようにしたい。

遠くにピントが合うように眼内レンズの度数を決定します。手術後は屋外で遠くを見る時に不都合がないようにする代わりに、近くを見る時には眼鏡が必要になります。もともと遠くの見え方がよく、近くを見る時は老眼鏡を使用していたという方に適しています。

2. 近く（30～50cm）がよく見えるようにしたい。

近くにピントが合うように眼内レンズの度数を決定します。手術後は読書やデスクワークなどに不都合がないようにする代わりに、遠くを見る時に眼鏡が必要になります。もともと近視のため裸眼で遠くの見え方が悪かった方で、仕事や趣味で近くを見ることが多い方に適しています。

3. 中間距離（1～3m）がよく見えるようにしたい。

中間距離にピントが合うように眼内レンズの度数を決定します。屋内での鍛冶屋テレビ鑑賞には便利です。この場合、遠くや近くはどちらも少しぼやけて見えるので、はっきり見えるようにするためには必要に応じてそれぞれ弱い度数の眼鏡を使用します。屋内にすることが多く、遠くも近くもほどほどに見えればよいという方に適しています。

※仮に、眼内レンズの度数を5mの距離に合わせた場合でも、5mより少し遠いところから少し近いところまで、ある程度の範囲は見えますが、見える範囲は年齢、個人差があります。

※ご希望に添って眼内レンズの度数を決定しても、検査の過程で誤差が生じてしまうこともあります。予定した距離にしっかりとピントが合わない場合もありますので、ご了承ください。

※もともと強い乱視がある場合は、乱視のために手術後も常に眼鏡が必要になる場合もあります。